

【国語・中1・「『不便』の価値を見つめ直す】①

育成を目指す資質・能力

(知識及び技能) 原因と結果、意見と根拠など情報と情報の関係について理解できる。

(思・判・表等) ①「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈できる。(Cウ)

②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにできる。(CI)

(学びに向かう力、等) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

ICT活用のポイント

成果物の共有と学びの積み重ねを意識した授業

【つかむ】

要約に必要な情報を意識し
学習の見通しをもつ
文章をわかりやすく要約する
ために必要なことは何だろう？

【追究する】

要約に必要な要素を入れて、
各種ヒントカードを活用しながら要約する。

【まとめる】

要約の仕方についてわかったことを学習支援ソフトのシートに記入する。

事例の概要

- 要約に必要な情報を全体で共有し、個別に繰り返し確認する。
- 成果物を共有しながら、自分が要約した文章を推敲する。

【事例におけるICT活用の場面①】

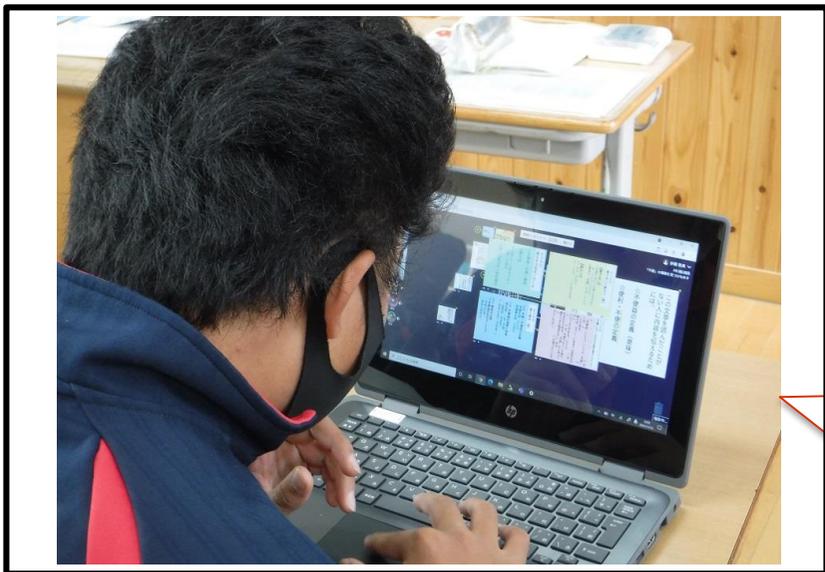
- 学習支援ソフトに保存されている「要約に入れる要素(不便益の定義、具体例、可能性、筆者の主張)」を示したカードや「使ってほしいキーワード」「書き始めと終わりの言葉」を示したカード、穴埋め式のヒントカードなどを活用しながらICT端末上で要約文を作成する。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 学習支援ソフトを活用しながらグループで要約文を読み合い、良いと思うものを選び、その理由を書き込む。
- 他の生徒の意見を聞き、必要だと思うことを書き加えながら再度推敲する。

【国語・中1・「『不便』の価値を見つめ直す」②】

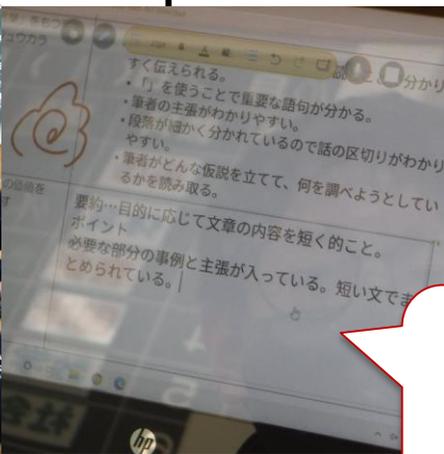
【事例におけるICT活用の場面①】



●生徒が個々に要約する場面では、「要約に入れる要素（不利益の定義、具体例、可能性、筆者の主張）」を示したカードや「使ってほしいキーワード」「書き始めと終わりの言葉」を示したカード、穴埋め式のヒントカードなどを活用し、何度も書き直ししながら推敲する様子が見られた。

○授業支援ソフトにより要約に必要な情報を提示し保存する。生徒は必要に応じて随時確認できる。
○ICT端末の活用により様々なヒントカードを取り出して確認や加筆修正が容易にできることは大きなメリットである。

【事例におけるICT活用の場面②】



●学習支援ソフトを活用しながらグループで要約文を読み合い、良いと思うものを選び、その理由を書き込んだ。グループで最も良いと思う要約文について学級全体で共有し、教師が要約のポイント（キーワードや段落の中心となる文を使うことや出来るだけ短い言葉で書くことなど）をまとめた。

●他の生徒の意見を聞き、必要だと思うことを書き加えながら再度推敲した。

○授業支援ソフトの思考ツールを活用した授業記録なども保存し、ICT端末上で容易にふり返ることができ、単元全体のつながりを意識しながら見通しをもった学習をしやすい。

【活用したソフトや機能】 ・学習支援ソフト